

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2020E-1						
研究開発課題名	小児科後期研修におけるアドボカシー研修プログラムの開発						
分類※	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input type="checkbox"/> C	<input checked="" type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S		
主任研究者	所属	総合診療部 緩和ケア科					
	役職	診療部長					
	氏名	余谷暢之					
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日						

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

①小児科専攻医のためのアドボカシー教育プログラム (CHAT)

教育プログラムの内容を以下のとおり改訂した。

- ・ こどもたちのこえを聴くことを理解するために、5歳児との診察のやり取りからこどもが話しやすい環境作りのためにできることを考えるモジュールを新たに作成した。
- ・ 地域アドボカシーのワークを改訂し、地域の疫学、こども計画を踏まえて自分自身が経験した課題を基に地域アドボカシーの実践ができるように工夫した。

2023年度のコースは18施設23人が受講した。

②応用編アドボカシー教育プログラム (CHAT advance)

若手小児科医中心に広くアドボカシーに関心があるこどもの医療にかかわる専門職のために、実際アドボカシー活動を実践している専門家とのWebを用いた交流の場を作った。

第1回「メディアを使った情報発信について」参加者23人

今西洋介先生 大阪大学公衆衛生学 特任研究員

第2回「学校との連携について考える」参加者20人

秋山千枝子先生 あきやま子どもクリニック

第3回「若手医師ができるアドボカシー活動」参加者 20 人

中村 俊貴 先生 東京都立小児総合医療センター

Web 会議システムを用いて全国から参加者が集い、双方向でアドボカシーについて考える場作りに貢献することができた。

本研究の目的は我が国において小児科医がアドボカシー活動を行う体制を整備することである。CHAT プログラムは若手医師のアドボカシーの意識を高めることに貢献していると考えられる。また、CHAT advance コースは、若手だけでなく中堅の小児科医も参加し、アドボカシーに関心の高い小児科医が集う場として貢献できる可能性がある。